

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
越谷市	増森地区	令和3年3月29日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	60.6ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	43.1ha
③地区内における60才以上の農業者の耕作面積の合計(後継者がいる場合を除く)	25.4ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	25.4ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	6.6ha
(備考)	

注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

畑作による高品質な野菜や水稻の集約的な生産に意欲的に取り組む担い手が多く、JA農産物直売所グリーンマルシェや集団的いちご観光農園といった地産地消・首都近郊農業の推進拠点もあり、地域の特色を活かした都市型農業に取り組んでいる地域である。一方で、農業者の高齢化や後継者不足は深刻で、将来的な担い手の確保や農地の適正利用について懸念されている。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

増森地区の農地利用は、中心経営体である認定農業者9経営体(3法人含む)及び認定新規就農者1経営体のほか、地域の中小規模や家族経営の農業者が支えていくことで対応していく。

農地所有者から貸付の意向が生じた場合には、地域での話し合いにより、柔軟に対応をしていく。

年間を通じて多くの集客がある越谷レイクタウンから約3km圏内に位置する地域であり、多くの需要の可能性があることから、いちご等の観光農業や新鮮な農産物の販売促進・ブランド化等を図ることにより、農業振興と地域経済活性化に取り組んでいく。

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農法	農業者1	施設野菜複合・いちご	4.5 ha	施設野菜複合・いちご	5.8 ha	増森
認農	農業者2	露地野菜複合	0.8 ha	露地野菜複合	0.9 ha	増森
認農法	農業者3	施設野菜複合	5 ha	施設野菜複合	7 ha	増森
認農	農業者4	いちご	0.6 ha	いちご	0.7 ha	増森
認農	農業者5	いちご	0.5 ha	いちご	0.5 ha	増森
認農	農業者6	いちご・花卉	0.5 ha	いちご・花卉	0.5 ha	増森
認農法	農業者7	水稻	10 ha	水稻	15 ha	増森
認農	農業者8	施設野菜複合	0.5 ha	施設野菜複合	0.6 ha	増森
認農法	農業者9	いちご	0 ha	いちご	1 ha	増森
認就	農業者10	いちご	0.1 ha	いちご	0.2 ha	増森
計	10人		22.5 ha		32.2 ha	

注1:「属性」欄には、個人の認定農業者は「認農」、法人の認定農業者は「認農法」、認定新規就農者は「認就」、法人化や農地集積を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」と記載します。

注2:「今後の農地の引受けの意向」欄については、現状からおおむね5年から10年後の意向を記載します。

注3:「経営面積」欄には、プランの対象地区内における中心経営体の経営面積を記載します。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

農地の貸付け等の意向

貸付け等の意向が確認された農地は、81筆、62,737㎡となった。

農地中間管理機構の活用方針

集団的いちご観光農園事業地において、農地中間管理事業を活用した集約化と、水田から高収益作物であるいちごへの転換を進めている。

いちご以外でも、農業者の高齢化や後継者の状況等を見据えながら、農地の出し手意向の掘り出しや、担い手の意向の確認を適宜行っていく。

基盤整備への取り組み方針

計画的・効率的な農業水利施設等の整備・補修に取り組む。また、農地中間管理機構と連動した農地の大区画等の大規模な基盤整備について、検討を進めていく。

作物生産に関する取組方針

稲作は集約化による農作業の効率化に取り組む。畑作はいちご、ほうれんそう等の施設野菜、ねぎ、えだまめ、山東菜、とうもろこし等の露地野菜をはじめとする園芸作物の生産強化に取り組む。また、集団的いちご観光農園を展開しており、生産・加工・販売の拡大や他産業との連携により、首都近郊という地理的優位性を活かした高収益農業を実現する。

鳥獣被害防止対策の取組方針

ハクビシンやアライグマからの農作物被害については、箱わな等の利用で発生防止に取り組む。

災害対策への取組方針

台風被害等の防止のため、耐風性の高いハウスの整備推進や事前準備による被害軽減、施設園芸共済等の加入促進に努める。

(参考) 農地の貸付け等の意向(任意記載事項)

	農地の所在(地番)	貸付け等の区分(㎡)		
		貸付け	作業委託	売渡
1		81筆		
2				
3				
4				
5				
6				
	計	62,737		

注: 農業委員・農地利用最適化推進委員が農地の貸付け等の意向を確認した面積を農地利用最適化交付金の成果実績払いの対象とする場合には、人・農地プランにおいて地番、面積を記載することが必要です。

(留意事項)

本様式をそのまま公表様式として活用する場合には、中心経営体の氏名等特定の個人が識別される情報が含まれることから、本人の同意を得る等個人情報保護条例等に抵触しないよう留意してください。

なお、本人の同意が得られない場合には、その方の氏名を伏せるなど、個人が識別されないよう留意してください。